

◆禅会だより

横 浜 禅 会

世古 智常

(東京第一支部・横浜禅会)

1 経緯

人間禪の修行道場は、関東では都内に2カ所、千葉に2カ所、茨城に1カ所の計5カ所がありますが、大きな人口を抱える首都圏南部、横浜地区にはまだありません。今後の布教活動を進める上においても、この地区で支部を設立したいとの思いは極めて強く、このたび葆光庵総裁老師をはじめ道友各位の発願により、横浜支部設立の準備段階としての横浜禅会が、平成20年5月5日付けで設立されました。責任者は小生が務めさせていただいております。

さて、横浜禅会は生まれたばかりで、これから歴史をつくっていくわけですが、前身となる横浜静坐会は長い歴史を有しており、まずそのご紹介から始めたいと思います。

2 横浜静坐会

横浜静坐会のさらに前身であります鶴見静坐会が発足いたしましたのは、38年前の昭和44年6月であります。当初は、石川島播磨重工業株 (IHI) 横浜工場内のクラブ活動の一環としてスタートしました。既に人間禪の団員であります森幽聲居士が音頭を取り、社内の仲間、さらに社外で横浜在住の方々にも声をかけ、鶴見にありました会社の寮「臨山荘」で月2回隔週水曜日に静坐会を行ない、千獸庵三松涼陰老師にご指導を賜っておりました。その後、名称が横浜静坐会に変わりましたが、一泊静坐会を行なうなど、活発な活動が行われました。

「臨山荘」は昔、著名な方の別荘であり、枯山水の庭を臨む素晴らしい静坐会場であったとのことです。

しかしながら、90年代の不況の折に、IHIでも御多分に漏れず、寮や社員の保養所の整理が行われ、「臨山荘」も売却され、残念ながら絶好の場所を失うこととなっていました。その後、静坐会の会場は、鶴見駅前の公共施設、IHIの横浜工場内体育館、石川町の労働会館等と転々と場所を替え、現在の川崎市産業振興会館となりました。

その間、静坐会の中心メンバーだったIHIの方々が定年退職されると、その後にIHIから続く方もなく、会社のクラブ活動からスタートした横浜静坐会も一般の方が中心となるとともに、人数も漸減してまいりました。

そのような苦難の状況におきましても、横浜静坐会は森幽聲居士から山沢幽渓居士に引き継がれ、幽渓居士の並々ならぬご熱意により現在まで断絶することなく、38年間継続されておりります。このことは実に特筆すべきことであり、敬意を表するとともに、感謝申し上げたく存じます。

現在の横浜静坐会は、川崎市産業振興会館（10階和室）で月2回（原則として第2、第4火曜日午後6時20分～8時）行っております。静坐の後は輪読会などを行い、たまには懇親会を行いながら会員相互の親睦を深めております。詳細は、横浜禅会のホームページをご覧ください（<http://mypage.odn.ne.jp/home/yokohamazenkai>）。

3 坐禅講演会

平成19年、首都圏南部、横浜地区での人間禅の活性化を目指し、「坐禅講演会」が企画され、1月20日（土）に川崎市産業振興会館で「横浜静坐会・講演会」が行われました。

横浜静坐会にご縁の深い千獸庵三松涼陰老師に基調講演をお願いし、書道師範の笠倉玉渓禅子、宏道会の柿沼無得居士、ドイツ人のゾ

ンターク興禪居士や横浜静坐会会員の佐藤直さん等の坐禅体験談を交えながら、坐禅の仕方、数息観の実践などを行いました。当日は朝方からの雨にもかかわらず、およそ60名の出席があり、盛会と

なりました。この講演会の後、参加された一般の方4名が早速「横浜静坐会」に入会されました。

また静坐会のチラシを見て入会してきた中国人の続さん等、静坐会への参加者も毎回5～6名と以前に比べて倍増し、活気を取り戻してきました。

4 横浜静坐会としての参禅会

横浜静坐会では、講演会に引き続き、さらに「参禅会」を行なうこととなり、山沢幽渓居士が横浜地区内の場所探しに奔走されました。神奈川、横浜近辺には各宗派の総本山や寺院も多く、坐禅会も活発に行われていることから、臨済宗円覚寺派の総本山である鎌倉の円覚寺や、時宗の総本山・遊行寺（藤沢）、曹洞宗の総本山・總持寺（鶴見）など20数カ所を直接訪ねられたり、電話で問い合わせをされたりと骨を折られましたが、結局は断られ、これが最後と思って訪問された横浜駅近くの曹洞宗の宗興寺で、やっと快諾が得られました。ただ宿泊は難しく、「日帰り参禅会」となりましたが、山沢幽渓居士のご努力のお陰でよい場所をお貸しいただけることになり、静坐会のメンバー一同感謝申し上げました。

宗興寺は室町時代に建立され、明治維新の際には、アメリカ人宣教師で医者のヘボンさん（ヘボン式ローマ字の創始者）が施療所を開設



講演会風景（講師：三松涼陰老師）

した由緒あるお寺とのこと。住職の中野重哉師は五十歳代前半で、NHKで宗教の話をされるなど積極的な方で、「人間禪」とは宗派が異なるにもかかわらず、同じ禅宗であり、広めるのは大いに結構と言われて場所を提供していただきました。

宗興寺という大変素晴らしい場所を得たことにより、この横浜静坐会としての記念すべき「参禪会」は、平成19年11月4日（日）に行なうことができました。師家は葆光庵総裁老師が務められ、参加者は近隣の支部の応援もあって30名となりました。横浜静坐会の5名の未入門の人たちには参禪体験が許されました。結制茶礼では、老師より「横浜地区での初めての参禪会。今日からスタートであり、歴史に残るものであります。」とのご垂示を頂戴し、横浜静坐会の会員一同、喜びと同時に身の引き締まる思いがありました。その後、宗興寺のご住職に法話（道元禪師の話）をしていただき、午後7時に「横浜静坐会・第1回参禪会」を無魔円了いたしました。この後、ご住職にもご参加いただいた懇親会を行い、今後の横浜静坐会の発展を誓いました。

改めて葆光庵総裁老師をはじめ、東京第一・第二・中央支部の有志の方々のご協力に感謝申し上げます。

5 横浜禅会の設立および参禪会

前述のように、首都圏南部、横浜地区での支部設立に向けて、横浜禅会が設立されましたが、現在までに既に2回の「参禪会」を行いました。第1回は平成20年5月16～18日、第2回は平成20年10月24～26日に、いずれも東京日暮里の擇木道場たくばくで行っております。第1回が51名、第2回が64名と多くの参加者を得て、2泊3日の短期間ではありましたが、得るものが多い「参禪会」とすることができます。

しかしながら、横浜禅会は、横浜とは名ばかりで、横浜に宿泊参禪会が可能な場所をまだ確保できておらず、擇木道場をお借りして行わねばならないという残念な状況にあります。また運営面でも、横浜禅



参禅会を円了して

会からの参加人員
では全く人手不足
で、東京第一支部
をはじめ近隣支部
の方々に役位の補
佐をしていただく
ことで、なんとか
行うことができた
という、大変未熟
で実体の伴わない

禅会であります。

第2回「参禅会」の円了茶礼の老師のご垂示では、「全く横浜地区の場所探しが進んでいない。次回の「参禅会」は必ず、横浜地区の新しい場所で行うように。」との厳命を頂戴いたしました。

今後は、宿泊可能な「参禅会」の場所を確保するとともに、横浜近辺在住の新しい方々の参加を増やし、自利利他の願輪を廻らして、一日も早い横浜支部設立を目指して、横浜禪会の会員一同、力を合わせて突き進んでいきたいと思います。

皆様、ご協力のほどよろしくお願ひ申し上げます。 合掌

(注) このたび支部名と禅会名に変更があり、「東京第一支部」は「埼京支部」に「横浜禪会」は「京浜禪会」に変わりました。

■著者プロフィール



世古智堂

昭和38年、大阪府生まれ。会社員。工学博士。
剣道六段、居合道四段（無双直伝英信流）。
平成5年、人間禪松崎廓山老師に入門。
人間禪輔教師。